

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15H03239

研究課題名(和文) 中世後期守護権力の構造に関する比較史料学的研究

研究課題名(英文) Comparative material studies on the structure of Shugo in the latter half of the Middle Ages

研究代表者

川岡 勉 (Kawaoka, Tsutomu)

愛媛大学・教育学部・教授

研究者番号：90186057

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の活動の柱は、全国の守護の受発給文書の調査・収集作業であり、活字史料の検索・集約と並んで、対象史料を収蔵している研究機関・各種施設・個人などへの出張調査を分担して行った。こうして集めた史料をもとに、国別または守護ごとのデータベースを作成し、これを収録したCD-ROMを添付した報告書を作成した。データベースを読み解く上で便宜を図るために、手引きとなる解説文も掲載した。

本研究のもう1つの活動の柱は、各自が調査・収集した史料やその分析結果を持ち寄り、共同で検討を加える研究会・史料検討会であり、年に2～3回の割合で会合をもった。途中でシンポジウムも開催して研究成果を広く公開・発信した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中世後期の守護については、全国の状況を俯瞰して客観的に検討を加える環境が整っておらず、研究は個別分散化しがちであり、守護権力のあり方を全国的規模で把握するのは困難であった。本研究は、こうした状況を打破し、全国の守護の受発給文書データベースを作成することで、守護の性格について議論する共通基盤を構築しようとしたものである。本研究において守護あるいはそれに相当する権力の文書の多くがデータベース化されたことにより、守護の関連文書を全国的な規模で俯瞰し、相互に比較・検討するのが容易になった。各守護の権力編成上の特質を解明する上でも、重要な手がかりになることが期待される。

研究成果の概要(英文)：The pillar of the activity of this research is the research and collection work of the documents issued and received for Shugo of the whole country. I shared the business trip survey. Based on the historical materials collected in this way, a database was created for each country or for each Shugo, and a report was attached with a CD-ROM containing this. For your convenience in reading the database, we have also included an explanatory note as a guide. Another pillar of this research is a study group / history materials study group, which brings together the historical materials surveyed and collected by each person and the analysis results, and jointly examines them, and meets twice or three times a year. to get. A symposium was also held on the way to widely publicize and disseminate the research results.

研究分野：日本中世史

キーワード：守護権力 中世後期 文書史料

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 中世後期の武家権力をめぐる研究において、大きな焦点となっているのが守護の位置づけである。従来、守護を幕府の地方支配の機関と捉える制度史的な議論と、在地領主制の発展形態として守護領国制を把握する議論があり、守護の位置づけは両説の間で揺れ動いてきたと言える。しかし、守護領国制論が1960年代以降批判され限界を露呈していくと、守護の研究は一時衰えた。80年代以降、室町幕府 守護体制論及び戦国期守護論が提起され、一方で守護公権は在地の公的秩序を追認・吸収することで生まれたとする地域社会論が登場するなど、あらためて守護の役割がクローズアップされようになる。

(2) 研究代表者は、守護に関する制度史的な議論と領主制的に捉える議論を統一的に把握することが重要だと考え、守護を中央国家と地域社会の媒介項として中世後期の権力秩序の基軸的存在であったとみなす立場から、室町幕府と守護の関係や守護の分国支配のあり方について探ってきた(川岡勉『室町幕府と守護権力』2002年)。中世後期を幕府 守護体制の成立・展開・変質・解体過程と捉え、戦国期まで視野に入れながら守護を軸に権力秩序の変遷を論じる見方は、畿内や西国の研究者から一定の支持を集める一方で、東国を中心とする戦国大名論の研究者から批判的な意見を招いている。その背景には、同時代の日本列島の政治権力のあり方を考察しているにもかかわらず、東西の研究者の間で議論が十分にかみ合っていないという問題がある。研究代表者の研究対象が畿内以西の守護権力であるために、幕府 守護体制論や戦国期守護論が東国や九州を含め全国に適用できる議論であるかという疑問も投げかけられている。

(3) こうした状況が生じる根底に、室町幕府や守護、戦国大名など、当該期の政治権力についての理解や問題意識・課題設定に差があるのは疑いないが、より重要な問題は東国と西国を俯瞰し、客観的に検討を加える研究基盤、すなわち諸権力が受発給する文書史料のデータベースが整っていないことである。南北朝期や戦国期については、『南北朝遺文』『戦国遺文』が刊行され、受発給文書の収集により、個々の権力的特質を明らかにできる研究環境が整備されつつある。これに対し、室町期守護の受発給文書に関しては、細川氏など畿内近国の守護に関し遵行関連の文書をもとに支配機構を復元した今谷明氏の研究があるほか、畠山氏・赤松氏・山名氏・上杉氏・斯波氏・京極氏・一色氏などを対象とした科研費補助金成果報告書があるものの、研究対象が全国に所在する守護のうちの一部にとどまっており、中世後期の守護について議論する共通基盤の構築には至っておらず、守護の特質解明や比較検討を行うための環境整備は不十分である。

(4) 以上の状況を打破し、中世後期の政治権力構造に関する共通理解を確立するためには、まず全国の守護の受発給文書を網羅的に収集し、その変遷や機能を分析することが不可欠であり、こうした基礎的作業の蓄積により、当該期における守護の権力構造の特質を解明していくことが求められている。

2. 研究の目的

(1) 中世後期の守護については、佐藤進一氏・今谷明氏の網羅的・制度史的研究を踏まえて、全国で研究が進められているが、守護による分国支配は諸国の地域的特質に規定されて一律に論じられない多様性を持っている。自治体史などで守護支配の実態解明が進んでいるものの、ともすれば個別化・分散化しがちであり、守護権力のあり方を全国的規模で把握するのは困難である。

(2) 本研究では、従来の研究成果を総括するとともに守護権力の歴史的な性格を解明するために、守護の受発給文書を悉皆的に調査・収集し、これにより守護権力について議論する共通基盤を構築する。その上で、諸国守護ごとに関連史料の特徴点を整理するとともに、諸国守護相互間の関連史料の比較・検討を通じて中世後期の守護権力の構造的な特質を提示することをめ

ざす。

(3) 中世後期の守護は中央国家と地域社会を媒介する存在であるという見通しに立てば、守護を論じることが中世後期の権力秩序総体を問題にすることにつながるはずであり、本研究で全国の守護に正面から分析を加えることは中世後期の権力秩序総体に関する理解を深めていく上で重要な基礎を構築するものとなる。

3. 研究の方法

(1) 守護受発給文書の悉皆的収集調査、およびその検討を行うという本研究課題の特質に鑑み、また守護の配置が全国にわたることから、守護権力の研究を専門とする研究者を広く集める必要があり、各地の守護関係史料の情報に詳しい研究者に共同研究に加わるように呼びかけ、研究代表者・研究分担者・研究協力者の合計 14 名で共同研究を行う体制を組織した。

(2) このメンバーにより、中世後期の守護権力と受発給文書をテーマに、データベースの構築と公開、各地における研究会・シンポジウムの開催、研究成果報告書の作成、を有機的に連関させて共同研究を実施することを取り決めた。

(3) 受発給文書を悉皆的に収集するため、各地域・守護家の担当者を決め、対象となる史料が収蔵されている機関・施設・個人等への調査・収集作業を行い、データベースを構築・公開する。各担当者は、諸国守護ごとに関連史料の特徴や読み取れる内容を整理・分析し、これを持ち寄って共同で検討を加える。この作業を踏まえて、諸国守護相互間の比較検討を行い、守護権力の役割や地域社会との関わり、地域的差異や時代的変遷について共通認識を確立する、という方針で作業を進めた。

4. 研究成果

(1) 全国の守護の受発給文書の調査・収集のため、活字史料の検索・集約と並んで、対象史料を収蔵している研究機関・各種施設・個人などへの出張調査を分担して行った。こうして集めた史料をもとに、国別または守護ごとのデータベースを作成し、これを収録した CD-ROM を添付した報告書を公刊した。報告書には、データベースを読み解く上で便宜を図るために、手引きとなる解説文も掲載した。

報告書に添付した CD-ROM には、中世後期の諸国守護の受発給文書のデータベースが収録されている。対象とする時代の範囲は、原則として足利政権が発足した建武 3 年（1336）から、天文末年（1555）までとした。但し、例外的にこの範囲を超えてデータベース化したものもある。データベースには、全国の守護あるいはそれに相当する権力の受発給文書を中心に収録したが、中世後期守護の分国支配や権力構造の多様性に照らして考えると、採録の範囲について一律の基準を設けるのは困難である。どの範囲まで採録するのが望ましいかは、作成担当者の判断に委ね、採録の基準には幅を持たせた。

データベースの項目は、原則として、西暦・和暦・月日・出典（文書群名）・文書名・署判者（差出人）・署判位置・宛所・内容（キーワード）・料紙・書止文言・刊本・備考としたが、これも作成担当者の判断によってある程度幅を持たせた。また依拠する刊本によって違いが見られる文書名をどの程度統一するかも、各人の判断に委ねた。

全国の守護の受発給文書を分担してデータベース化に取り組んだものの、残念ながら中世後期の守護をすべて網羅できたわけではない。例えば、本研究のメンバーでカバーしきれなかった守護に、加賀富樫氏・筑前少弐氏・対馬宗氏などがある。南北朝期に短期間守護に在職した朝山・荒川・石橋・岩松・上野・塩冶・楠木・高・中条・松田・桃井・吉見氏などのデータも

含まれていない。中世後期の守護権力の研究は、これら本研究では取り上げられなかった守護についても十分目配りしながら、進めていく必要がある。

また、前述したように本研究でデータベース化の対象としたのは、天文末年までの文書に限られている。これは、それ以後の文書が激増するということもあるし、それ以後の地域権力を守護という概念で把握することの妥当性についてメンバーの間で意見が分かれているためでもある。

以上のように、いくつかの課題を残しているとはいえ、本研究によって中世後期の守護あるいはそれに相当する権力の文書の多くがデータベース化されたことの意味は大きい。守護の受発給文書を全国的な規模で俯瞰することが可能になり、守護の性格について議論するための共通基盤が構築されたと言えよう。相互の比較・検討や、各守護の権力編成上の特質を探る上での手がかりにもなることが期待される。

(2) 各自が調査・収集した史料やその分析結果を持ち寄り、共同で検討を加える研究会・史料検討会を10回開催した。あわせて、3年目に中間シンポジウム開催して研究成果を広く公開・発信した。最終年度に総括シンポジウムを開催して、共同研究の最終的な成果を発表する予定であったが、これは新型コロナウイルスの感染拡大により中止せざるをえなかった。発表できなかったシンポジウムの報告内容も含めて、以上の研究成果は、後日、論文集を刊行する形で公開することにしたいと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読論文1件）

川岡勉	15
天文伊予の乱と河野氏権力	2019年
四国中世史研究	19~32
掲載論文のDOI：なし	査読の有無：有
オープンアクセス：なし	国際共著：

〔学会発表〕 計1件

新谷和之
戦国期近江三雲氏の動向 大名権力と惣国一揆の接点
大阪市立大学日本史学会
2019年

〔図書〕 計3件

川岡勉 伊藤幸司 真木隆行 和田秀作 増野晋次 丸尾弘介 北島大輔 杵名貴彦 沖田絵麻 佐藤力 五十川雄也 山田貴司 長谷川博史 中司健一 佐伯弘次 尾崎千佳 荏開津通彦 影山純夫 木越俊介	2019年
勉誠出版	総ページ数：404
室町戦国日本の覇者 大内氏の世界をさぐる	

川岡勉 片桐昭彦 矢田俊文 高橋一樹 小谷利明 田中慶治 森田真一 村井良介 播磨良紀 高橋充 西尾和美 安藤弥 谷口央	2019年
高志書院	総ページ数：353
戦国期文書論	

遠藤ゆり子 黒嶋敏 長谷川伸 高橋健一 大石直正 渋谷敏己 小林清治 大越良 羽下徳彦 菅野正道 星川礼応	2019年
戎光祥出版	総ページ数：357
中世関東武士の研究 25 戦国大名伊達氏	

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 川岡 勉	4. 巻 65
2. 論文標題 中世後期備後における守護支配と国衆	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 愛媛大学教育学部紀要	6. 最初と最後の頁 289 - 304
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川岡 勉	4. 巻 18
2. 論文標題 「赤穴郡連置文」に見える国人と守護被官人	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 資料学の方法を探る	6. 最初と最後の頁 38 - 45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤ゆり子	4. 巻 4
2. 論文標題 板橋宿の研究動向とフィールドワーク授業の実践例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 淑徳大学人文学部 研究論集	6. 最初と最後の頁 67 - 82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新谷和之	4. 巻 17
2. 論文標題 田辺市中三栖・高地山城の遺構をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和歌山城郭研究	6. 最初と最後の頁 114 - 118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新谷和之	4. 巻 17
2. 論文標題 血深城跡	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和歌山城郭研究	6. 最初と最後の頁 13 - 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新谷和之	4. 巻 17
2. 論文標題 大向出城跡	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 和歌山城郭研究	6. 最初と最後の頁 17 - 18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川岡 勉	4. 巻 18
2. 論文標題 中世後期の守護支配と石見国衆	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鳥根県古代文化センター研究論集	6. 最初と最後の頁 37 - 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川岡 勉	4. 巻 17
2. 論文標題 相論史料からみた戦国期の寺社統制 大内氏分国を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 資料学の方法を探る	6. 最初と最後の頁 40 - 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古野 貢	4. 巻 8
2. 論文標題 中世後期守護研究の現在	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 十六世紀史論叢	6. 最初と最後の頁 101 - 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤ゆり子	4. 巻 3
2. 論文標題 志村延命寺・前野町東熊野神社・志村熊野神社の石造物調査－板橋区志村地域におけるフィールドワーク授業の実践例	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 淑徳大学 人文学部 研究論集	6. 最初と最後の頁 39 - 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠藤ゆり子	4. 巻 27
2. 論文標題 『伊達天正日記』所収『野臥日記』の一考察 政宗による民衆の軍事動員を考えるために	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 市史せんだい	6. 最初と最後の頁 23 - 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野田泰三	4. 巻 26
2. 論文標題 戦国期播磨における大名家妻室について - 赤松政則後室洞松院を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 女性歴史文化研究所紀要	6. 最初と最後の頁 30 - 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐々木幹朗	4. 巻 38
2. 論文標題 応永期常陸国の守護職補任をめぐる一考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本史学集録	6. 最初と最後の頁 1 - 10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 片桐昭彦	4. 巻 75
2. 論文標題 春日社越後御師と上杉氏・直江氏 「大宮家文書」所収文書の紹介	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新潟史学	6. 最初と最後の頁 41 - 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川岡勉	4. 巻 41
2. 論文標題 毛利氏の覇権確立と家格上昇	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 年報中世史研究	6. 最初と最後の頁 33 - 59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川岡勉	4. 巻 2
2. 論文標題 日本中世の巡礼・寺社参詣と地域権力	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 四国遍路と世界の巡礼	6. 最初と最後の頁 28-36
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川岡 勉	4. 巻 16
2. 論文標題 中世後期の守護職補任に関する史料学的考察	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 資料学の方法を探る	6. 最初と最後の頁 39-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古野 貢	4. 巻 8
2. 論文標題 中世後期守護研究の現在	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 十六世紀史論叢	6. 最初と最後の頁 101 - 124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 川岡 勉	4. 巻 15
2. 論文標題 大内氏の芸備支配に関する史料と毛利氏	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 資料学の方法を探る	6. 最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 川岡 勉
2. 発表標題 中世後期の守護職補任をめぐる一考察
3. 学会等名 中世後期守護研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川岡 勉
2. 発表標題 出雲尼子氏・周防大内氏の発給文書と権力構造
3. 学会等名 中世後期守護研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古野 真
2. 発表標題 備中細川氏の発給文書と権力構造
3. 学会等名 中世後期守護研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新谷和之
2. 発表標題 戦国期地域権力論からみた畿内・近国
3. 学会等名 日本史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新谷和之
2. 発表標題 紀伊の港津と権力
3. 学会等名 中世都市研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新谷和之
2. 発表標題 空閑地の配置からみた和歌山城の特質
3. 学会等名 紀伊考古学研究会・和歌山城郭調査研究会・和歌山地方史研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 新谷和之
2. 発表標題 近江六角氏の発給文書と権力構造
3. 学会等名 中世後期守護研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 片桐昭彦
2. 発表標題 和漢年代記の改訂・増補と地震記事
3. 学会等名 歴史地震研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 片桐昭彦
2. 発表標題 年代記にみる中世後期の地震
3. 学会等名 前近代歴史地震史料研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川岡 勉
2. 発表標題 守護の分国支配と分国を超える秩序 大内氏分国における寺社関係相論を中心に
3. 学会等名 中世後期守護研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古野 真
2. 発表標題 文献史学からみた細川氏・三好氏の権力構造
3. 学会等名 城下町科研徳島研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 遠藤ゆり子
2. 発表標題 伊達氏と京都
3. 学会等名 中世後期守護研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川岡勉
2. 発表標題 中世後期の石見守護と国人領主
3. 学会等名 中世後期守護研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 古野貢
2. 発表標題 伊賀国守護、伊勢・志摩国守護について
3. 学会等名 中世後期守護研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 川岡勉
2. 発表標題 中世後期の石見守護と国衆
3. 学会等名 「石見の中世領主の盛衰と東アジア海域世界」客員検討会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 野田泰三
2. 発表標題 賀茂別雷神社文書にみる三好氏法廷と土倉大森氏
3. 学会等名 賀茂社文書研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 川岡勉
2. 発表標題 伊予河野氏の分国支配と室町幕府
3. 学会等名 中世後期守護研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 佐々木倫朗
2. 発表標題 応永期常陸半国守護補任問題をめぐって
3. 学会等名 中世後期守護研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 川岡 勉
2. 発表標題 戦国期権力の成長過程と家格秩序 毛利氏の事例から
3. 学会等名 中世史研究会（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 川岡 勉
2. 発表標題 西国社会における大内氏
3. 学会等名 大内氏歴史文化研究会（招待講演）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計20件

1. 著者名 新谷和之	4. 発行年 2018年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 341
3. 書名 戦国期六角氏権力と地域社会	

1. 著者名 新谷和之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 306
3. 書名 戦国時代の大名と国衆	

1. 著者名 新谷和之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 戎光祥出版	5. 総ページ数 296
3. 書名 戦国和歌山の群雄と城館	

1. 著者名 野田泰三	4. 発行年 2018年
2. 出版社 UNIVERSITY OF HAWAII PRESS	5. 総ページ数 532
3. 書名 Land, Power, and the Sacred - The Estate System in Medieval Japan -	

1. 著者名 遠藤ゆり子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 395
3. 書名 中近世の家と村落	

1. 著者名 遠藤ゆり子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 青森県	5. 総ページ数 666
3. 書名 青森県史 通史編 1 原始 古代 中世	

1. 著者名 野田泰三	4. 発行年 2018年
2. 出版社 姫路市	5. 総ページ数 807
3. 書名 姫路市史 第2巻 本編 古代中世	

1. 著者名 佐々木幹朗	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 368
3. 書名 戦国遺文 下野編	

1. 著者名 佐々木幹朗	4. 発行年 2017年
2. 出版社 日本史史料研究会	5. 総ページ数 260
3. 書名 日本史のまめめめしい知識 第2巻	

1. 著者名 川岡勉・真木隆行・大谷史子・伊藤幸司・西尾和美	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山口市	5. 総ページ数 1055
3. 書名 山口市史 史料編 中世	

1. 著者名 古野貢・渡邊大門・長屋隆幸・千葉篤志・中脇聖・木下昌規・平野明夫・竹井英文・佐島顕子・水野伍貴・光成準治・白峰旬・曾根勇二・片山正彦・荒垣恒明	4. 発行年 2016年
2. 出版社 柏書房	5. 総ページ数 267
3. 書名 戦国史の俗説を覆す	

1. 著者名 古野貢・生駒哲郎・呉座勇一・浅野友輔・木下昌規・の場匠平・木下聡・石渡洋平・千葉篤志・久保木圭一・芳澤元・細川重男・山田徹・小野澤真他19名	4. 発行年 2016年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 270
3. 書名 日本史のまめめめしい知識	

1. 著者名 野田泰三	4. 発行年 2016年
2. 出版社 文理閣	5. 総ページ数 539
3. 書名 室町政権の首府構想と京都 室町・北山・東山	

1. 著者名 野田泰三・渡邊大門・竹内智宏・山下晃誉・光成準治・中脇聖・片山正彦	4. 発行年 2017年
2. 出版社 歴史と文化の研究所	5. 総ページ数 217
3. 書名 論集赤松氏・宇喜多氏の研究	

1. 著者名 遠藤ゆり子ほか	4. 発行年 2016年
2. 出版社 米沢市上杉博物館	5. 総ページ数 127
3. 書名 伊達氏と上杉氏	

1. 著者名 川岡勉、山内治朋、山田康弘、山内謙、西尾和美、得能弘一、桑名洋一、中平景介	4. 発行年 2015年
2. 出版社 岩田書院	5. 総ページ数 356 (87-103)
3. 書名 伊予河野氏	

1. 著者名 川岡 勉、井上寛司、西田友広、原慶三、長谷川博史、中野賢治、西尾克己、山根正明、永井猛、的野克之	4. 発行年 2016年
2. 出版社 松江市	5. 総ページ数 702 (235-336)
3. 書名 松江市史 通史編2 中世	

1. 著者名 古野真、佐藤雄基、則竹雄一、大喜直彦、小林一岳、川端泰幸、平井上総、志賀節子、東島誠、櫻井彦、河内将芳、渡辺滋、田村憲美、矢部 健太郎、窪田涼子、藤井崇、酒井紀美、高谷知佳	4. 発行年 2015年
2. 出版社 竹林舎	5. 総ページ数 494 (331-352)
3. 書名 環境と文化の歴史学 6 契約・誓約・盟約	

1. 著者名 遠藤ゆり子	4. 発行年 2016年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 331
3. 書名 戦国時代の南奥羽社会 大崎・伊達・最上氏	

1. 著者名 遠藤ゆり子、菅野正道、垣内和孝、佐藤貴浩、金子拓、熊谷隆次、松岡進、佐々木徹	4. 発行年 2016年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 293 (1-11, 61-62, 242-246, 290-293)
3. 書名 東北の中世史 4 伊達氏と戦国争乱	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	片桐 昭彦 (KATAGIRI Akihiko) (00796716)	新潟大学・人文社会科学系・准教授 (13101)	
研究分担者	新谷 和之 (SINYA Kazuyuki) (20825103)	近畿大学・文芸学部・講師 (34419)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	古野 貢 (FURUNO Mitsugi) (40382022)	武庫川女子大学短期大学部・共通教育科・准教授 (44523)	
研究分担者	遠藤 ゆり子 (ENDO Yuriko) (70612787)	淑徳大学・人文学部・准教授 (32501)	
研究分担者	佐々木 倫朗 (SASAKI Michiro) (80280907)	大正大学・文学部・教授 (32635)	
研究分担者	野田 泰三 (NODA Taizo) (90335183)	京都橘大学・文学部・教授 (34309)	